

ました。また、黙々と汚れた便器と向き合った。う保護者や子どもの姿、狭いトイレ内で声を掛け合いながら協力して活動する様子を見て「ありがとうございます」という思いを強く感じました。親子で参加した保護者からは、「家では見られない我が子の姿を見ることができました」いう声を聞かせていただき、トイレがきれいになるだけではなく、親子の絆を強くする活動でもあると感じた瞬間でした。

令和二年度となり、私は現在の勤務校である愛西市立佐屋中学校に異動しました。本校では、トイレの環境整備が長年の課題となつており、保護者や子どもたちからは、「臭いを何とかしてほしい」「新しく改修してほしい」などの声が多く寄せられていました。日々の清掃活動で子どもたちが便器を磨いたり、床を拭いたりしてくれていますが、なかなか完璧には至りません。そこで、PTA役員や校長に「西三河トイレ掃除に学ぶ会」の活動や私自身の経験を紹介させていただき、本校では、PTA主催による「校内環境整備活動」としてトイレ掃除を開催する運びとなりました。本校でも西三河掃除に学ぶ会の代表世話人である杉浦氏に現場確認をいたしました。

各班に分かれ、トイレに入る時、つんとしたトイレのにおいに少し「うつ」となりました。もともと自ら進んで参加しようと思つていなかつたため、当日の掃除が始まるまでずっと抵抗感がありました。

だろう、きれいなところならもしかすると洋式トイレかもしれないと考えていました。もともと自ら進んで参加しようと思つていなかつたため、当日の掃除が始まるまでずっと抵抗感がありました。

だろう、きれいなところならもしかすると洋式トイレかもしれないと考えていました。もともと自ら進んで参加しようと思つていなかつたため、当日の掃除が始まるまでずっと抵抗感がありました。

だろう、きれいなところならもしかすると洋式トイレのにおいに少し「うつ」となりました。女子トイレとはちょっと違つたにおいのように感じました。結構臭うトイレの中で小便器掃除が始まりました。普段使わない小便器磨き始めているときでも、「どうして普段使つていながいがあるトイレですね」と聞き覚えのある言葉が返つてきました。しかし、新型コロナウイルスが猛威を振るい、やむなく中止を決断しました。年度が替わり、今年度もPTA行事として、トイレ掃除を計画し

ていたきました。活動を終えた時は、参加していただいた皆様への感謝の思いと、きれいになつたトイレを見た時の子どもたちの反応が樂しみでした。参加者からは、「実際に素手で便器に手を入れるのは無理」「トイレ内の人数を少なくできたら」という切実な声をいたぎながらも、「汚れが取れていくうちにスッキリとした気持ちになり、もつときれいにしたいと思うようになった」「達成感を感じることができた」「日常生活で何かをするときには、何事にも意味があることを頭において行動したい」「ぜひ、この活動を継続してほしい」などの有難い声をいただきました。

昨年末の十二月には、初めて「便教会総会」に参加させていただきました。東海学園大学の学生さんや愛知工業高校の卒業生の皆さんの大好きな心の変化は、先生方の指導の賜物であり、一人ひとりの人生の財産だと思います。真にトイレ掃除の意義や価値そのものだと実感しました。

教育現場では、コロナ禍による影響はも

ていただきました。様々な行事を計画するにあたり、新型コロナ対策が心配されました。が、PTAや掃除に学ぶ会の関係者のご協力のおかげで、一年越しの開催を実現させることができました。私自身も久しぶりに便器と向き合いました。グループでの打ち合わせや説明時には、「うん、うん」と納得し、汚れが無くなり、便器が白く輝き出すにつれ「自分が磨いた便器が一番きれいになった」「もう誰にも使わせたくない」という変な自信と不思議な気持ちになりました。活動を終えた時は、参加していただきました皆様への感謝の思いと、きれいになつたトイレを見た時の子どもたちの反応が樂しみでした。参加者からは、「実際に素手で便器に手を入れるのは無理」「トイレ内の人数を少なくできたら」という切実な声をいたぎながらも、「汚れが取れていくうちにスッキリとした気持ちになり、もつときれいにしたいと思うようになった」「達成感を感じることができた」「日常生活で何かをするときには、何事にも意味があることを頭において行動したい」「ぜひ、この活動を継続してほしい」などの有難い声をいただきました。

自己の担当するトイレの場所のメールが届いたとき、私は何かの間違いではないかと思います。「黒田菜々子 男子トイレ 小」。参加する先生や先輩、同級生のほとんどの子は、女子トイレなのにもかかわらず自分は「男子トイレ」でしかも「小便器」の担当でした。どうして?と何度も思いました。私は、当然のよう

に掃除する場所は「女子トイレ」で和式トイレ

ちろん、ここ数年の急激な時代や価値観の変化を受け、変革が求められています。そのような中でこそ、私自身、学校関係者の「自分たちの学校は自分たちで」という思いや実践力と、トイレ掃除のように時代に影響されない不変的な価値があるものとを大切にすると考えます。本校においても、いろいろな立場の方々のお力添えをいただきながら取り組んでいくことが多くあります。トイレ掃除もその一つです。今後も、関係者の皆様のご支援を賜りますよう、お願ひ申し上げます。

『掃除で自分を見つめてみて』

東海学園大学養護教諭専攻
二年 黒田 菜々子

仮さまのような生き方

日本を美しくする会

相談役 鍵山秀三郎

私は22歳の時に下村湖人という人が書いた「青年の思索のために」という本を読みました。一冊百円の文庫本でございましたが、本当に価値ある本で、ボロボロになつて再び買い直したときは47刷りになつてました。ですが、かがわりますが、残念ながら今は

始まる前は、あんなにも嫌だつたのですが、知らないうちに嫌なことや匂いのことは忘れ、便器に頭を突っ込んで汚れを探して磨いていました。ここまでと言われたときには「まだ磨きが見えてきました。

日本を美しくする会
相談役 鍵山秀三郎